

## 条例に基づく認知症施策の推進（条例の 4 つの柱に基づく分類）

## （１）予防及び早期介入

## ○WHO 神戸センターと神戸大学等による共同研究への協力

介護予防事業の対象者選定に用いる「基本チェックリスト」に回答した約 8 万人のデータやフレイルチェック結果データと、その後の要介護状態との、認知症関連の比較・分析を実施。本市はデータの提供等による協力・連携。

令和 2 年夏頃 報告書が作成される予定

## ○認知症にやさしいまちづくり推進のための連携と協力に関する協定

〈医療産業都市にて実施〉

平成 28 年 3 月に、神戸市、先端医療振興財団と日本イーライリリー株式会社の間で協定を締結。

※日本イーライリリー株式会社が理解促進・意識啓発のため、啓発ムービーを作成（平成 29 年 12 月）。

※エーザイ株式会社（平成 26 年 6 月）、第一三共株式会社（平成 27 年 2 月）と、認知症を地域で支えるまちづくりの連携や推進に係る協定を締結。

## ○フレイルチェック

薬局等や集団健診会場において、フレイル予防の観点に基づいた「基本チェックリスト」・健康関連の QOL 測定（EQ-5D）・認知機能低下による初期の日常生活機能の低下を評価（CFI）と、握力等の測定を実施。

※平成 30 年度 1,126 人実施

令和元年度（10 月末時点）561 人実施

## ○PET（陽電子放出断層撮影法）によるアルツハイマー研究 〈医療産業都市にて実施〉

アルツハイマー型認知症の特徴であるアミロイドβの蓄積を可視化し、認知症の早期診断や鑑別診断、治療効果の研究を実施

## ○KOBE もの忘れネットワーク

認知症に関する臨床研究を推進するため、認知症専門医等と臨床試験参加希望者とのネットワーク（KOBE もの忘れネットワーク）を構築している

※令和元年 9 月末現在 委託医療機関 25 か所

## (2) 事故の救済及び予防

### ○認知症と診断された人による事故に関する救済制度

平成 31 年 4 月 1 日開始

※内容・実績については資料 5 - 1 を参照

### ○高齢運転者による交通事故の防止に向けて、移動手段の確保その他地域での生活支援に努めるとともに、認知症の疑いがある人の運転免許自主返納を推進する。

- ・ あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）や「認知症初期集中支援チーム」において、認知症の疑いがある人の自動車運転について家族等から相談に対応。
- ・ 認知症診断助成制度の認知機能検診（第一段階）において、受診者へ運転免許自主返納のリーフレットを渡している。
- ・ 令和元年 6 月～8 月に、マイナンバーカードの普及と併せた運転免許自主返納キャンペーンを実施（75 歳以上の方への受診券送付時（第 1 期）にキャンペーンのお知らせを盛り込んだ）

## (3) 治療及び介護の提供

### ○あんしんすこやかセンターの認知症相談対応の充実

人件費として、平成 30 年度に引き続き委託料を増額

※令和元年度 136,800 千円（1 センターあたり 180 万円）

### ○認知症診断助成制度

平成 31 年 1 月 28 日開始

※内容・実績については資料 5 - 1 を参照

### ○医療介護サポートセンターの設置

医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談対応や多職種連携会議の開催など、地域での医療と介護の連携を支援

※平成 29 年度 全区設置

### ○認知症初期集中支援チームの拡充

医療・介護の専門職が、認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問し、観察・評価を行ったうえで、鑑別診断の紹介など適切な医療介護サービスにつなぐ。

※平成 30 年 3 月 全区への派遣体制確立

※実績については資料 7 を参照

### ○認知症疾患医療センターの増設

認知症疾患医療センターは、認知症の鑑別診断に加え、専門医療相談等を実施する地域での認知症医療提供の拠点である。

※平成 30 年度 宮地病院、西市民病院を新たに指定し 5 箇所から 7 箇所へ

※令和元年度 専門医療相談・日常生活相談窓口を 5 月より開設  
認知症サロンの設置（年度中）

### ○認知症サポート医の養成

かかりつけ医への助言、専門医療機関やあんしんすこやかセンター等への連携の推進役となる認知症サポート医を養成

※平成 30 年度末 累計 160 名

令和元年度（10 月末時点） 申込み人数 24 名

### ○かかりつけ医認知症対応力向上研修

認知症の初期症状に早期に気づき、必要に応じて適切な医療機関につなぐため、身近なかかりつけ医を対象に、認知症の診断・治療や地域との連携等について研修を実施

※平成 30 年度末 受講者累計 624 名

令和元年度 受講者 38 名

### ○病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修

一般病院勤務の医師・看護師等の医療従事者向けに、基本知識や医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識について研修を行い、病院での認知症の人の手術や処置等の適切な実施の確保を図る。

※平成 30 年度末 受講者累計 219 名

令和元年度 受講者 53 名

### ○認知症介護研修

介護施設職員を対象に、認知症介護の知識・技術を修得させるための研修を段階的に実施。

※平成 30 年度末 受講者累計 4,943 名

（基礎、実践者、実践リーダー、介護指導者）

#### (4) 地域の力を豊かにしていくこと

##### ○「地域拠点型」一般介護予防事業

「地域拠点型」一般介護予防事業は、地域福祉センター等で週1回5時間程度、体操やレクリエーション、給食、専門職による介護予防講座等、様々なメニューを地域の特色にあわせて提供している。

※令和元年度10月末時点：78地域（108ヶ所）

##### ○「居場所づくり型」一般介護予防事業

高齢者の社会参加や生きがいつくりとなる身近な地域の通いの場を増やしていくため、原則月2回以上、通年開催されるなど、要件を満たす通いの場を運営する団体に対して、場所代などの運営費の一部を補助するものである。

※令和元年10月までに：計62団体に交付決定

##### ○認知症カフェ登録事業の推進

認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが自由に参加し、気軽に相互交流や相談等ができる地域に開かれた集いの場を登録・紹介

※令和元年11月1日時点：32箇所

##### ○地域包括支援センター単位での声かけ訓練の拡充

認知症の人の地域での見守り体制を構築するため、あんしんすこやかセンター単位（市内76センター）での声かけ訓練を実施する。

※平成30年度 36圏域45回実施

令和元年度予定 45圏域45回実施（うち新規21圏域21回）

##### ○認知症サポーターの養成

地域全体で認知症の人を見守るため、国が規定する研修を実施し修了者には認知症の人の理解者の証であるオレンジリングを配布。令和元年度は、小売業・金融機関・交通機関等の従業員向けに重点的に認知症サポーター養成講座を実施し、生活圏域に認知症の理解者が増加した。

※令和元年度10月末時点 受講者累計111,649名

（うち企業等26,790名、小中学生20,908人）

##### ○GPS安心かけつけサービス

行方不明者の事故を防止する対策として、GPS等を活用した行方不明者の早期発見・早期保護のための取組みを推進する。平成31年1月28日受付開始。

※契約数は資料5-1を参照

### ○高齢者安心登録事業の推進

行方不明などの心配がある在宅高齢者が事前登録を行い、あんしんすこやかセンターや警察等と情報を共有するとともに、行方不明時には電子メールで行方不明発生情報を配信し、警察への情報提供を呼びかけ、早期発見と保護を目指す。

※平成 30 年度 登録高齢者：833 名、メール配信：26 件（うち未発見 1 件）  
令和元年 10 月末時点

登録高齢者：960 名、メール配信：15 件  
捜索協力者の登録状況：460 名

### ○認知症ケアパス

認知症の症状に応じ、いつ、どこで、どのような医療・介護等のサービスを利用できるかについて、各区で地域資源を整理してまとめたもの。

※平成 30 年度より全区版を発行

### ○認知症地域支援推進員の配置

認知症の相談対応に加え、認知症初期集中支援事業などにおいて地域の支援機関をつなぐコーディネーター役として、各あんしんすこやかセンター等に兼務で配置している。

※令和元年 10 月末 106 名

### ○行方不明者緊急保護事業

神戸市内の警察官により保護された身元不明の高齢者を、特別養護老人ホームに緊急かつ一時的に保護する。

※平成 30 年度 2 人（6 日間保護）

令和元年度（10 月末時点） 3 人（8 日間保護）

### ○成年後見等の権利擁護

成年後見制度の利用が必要な方で、身寄りの無い方について、市長申立を行っている。また、成年後見支援センターの運営を市社会福祉協議会へ委託し、成年後見制度に関する相談や利用支援等を行っている。さらに、市社会福祉協議会内の、こうべ安心サポートセンターでは、権利擁護相談や、介護保険など様々な福祉サービスの利用手続きのお手伝いを行う「福祉サービス利用援助事業」を行っている。

平成 30 年度 神戸市長申立件数 60 件

平成 30 年度 成年後見制度に係る電話・来所等相談 1,244 件  
専門相談（再掲）125 件

平成 30 年度末 福祉サービス利用援助事業 利用者数 624 件

## ○その他普及啓発（主なもの）

（平成 30 年度）

- ・ 5 月 12 日 『認知症の人にやさしいまち』 講演会を開催
- ・ 広報紙 KOBE 平成 30 年 5 月号で 3 ページに渡り認知症特集を掲載
- ・ 認知症サポーター養成講座用に作成した DVD の配布・拡充
  - ※民生委員児童委員の全地区 173 枚、あんしんすこやかセンター76 枚等
- ・ 世界アルツハイマーデーに関する普及啓発
  - ・ 記念講演会を認知症の人と家族の会兵庫県支部と共催実施（9 月 15 日）
  - ・ ライトアップの取り組み（9 月 21 日）
    - ※KOBE ライトアップ DAY（光のミュージアム）、明石海峡大橋、モザイクの観覧車
  - ・ 展示、資料配布等
    - ※中央図書館 1 階フロア展示、兵庫県立美術館チラシ設置
- ・ 広報紙 KOBE 平成 30 年 10 月号に条例改正（認知症対策 神戸モデル）のパブリックコメントに関する 4 ページの挟み込み記事を掲載
- ・ 上記内容のポスター及びリーフレットを各施設へ掲示
- ・ 「認知症対策 神戸モデル」 についての特設ホームページを開設
- ・ 診断助成制度の開始に併せ、「認知症対策 神戸モデル」を駅広告、電車車内吊り、デジタルサイネージ等で幅広く周知
- ・ 各団体向けの出前トークの実施
- ・ 広報紙 KOBE 平成 31 年 1 月号に認知症診断助成制度の開始告知のための記事を掲載
- ・ 広報紙 KOBE 平成 31 年 2 月号に認知症診断助成制度の内容、実施医療機関名（住所・電話番号含む）を掲載

（令和元年度）

- ・ こうべオレンジダイヤルの開設（4 月 1 日）
- ・ 広報紙 KOBE 平成 31 年 4 月号に認知症「神戸モデル」の本格スタートとオレンジダイヤルの開設について掲載
- ・ 出前トーク等 64 回、約 3,000 人へ説明（11 月 19 日現在）
- ・ 神戸モデルに関する他都市からの視察（19 都市）
- ・ WHO 神戸センター等を通じた海外への発信（5 回）
- ・ 認知症「神戸モデル」のリーフレットを作成（英語版含む）  
（次ページへ続く）

- ・世界アルツハイマーデーに関する普及啓発
  - ・記念講演会及び街頭啓発・キャンペーンを認知症の人と家族の会兵庫県支部と共催実施（9月21日）
  - ・ライトアップの取り組み
    - ※明石海峡大橋、モザイクの観覧車
  - ・展示、資料配布等
    - ※中央図書館、垂水図書館、北神図書館、西図書館で実施
- ・こうべ福祉・健康フェアにおいて、認知症に関する展示及び資料配布（10月6日）
- ・RUN 伴（※）兵庫 2019 への参加と街頭啓発・キャンペーン（11月2日）
  - ※NPO 法人認知症フレンドシップクラブ・RUN 伴（ランとも）実行委員会が実施する、認知症の人の参加と理解を目的に地域住民、当事者・家族・医療福祉専門職等と一緒にタスキをつなぎ、日本全国を縦断するイベント